

羽帚はうき〔器〕鳥の羽にて造れる小きき帚

葉茶屋はちや〔住〕茶を賣る家

針箱はりばこ〔器〕裁縫の道具を入る箱

花瓶はないけ〔器〕草木の花を活け置く器

花籠はなかご〔器〕花を盛り差す籠

花蓆はなござ〔雜〕蘭を美しく染めしたる蓆

微菌ばいきん〔雜〕極めて細微なるに害を及ぼす

離家はなれや〔住〕人里遠く離れた家

腹帶はらおび〔衣〕腹に巻きつくる帶

半襟はんえり〔衣〕婦人の襟の縫ひつけ外見を飾るもの

番傘ばんがさ〔器〕粗末なる傘

飯臺はんたい〔器〕數人集まりて食事する臺

麥飯ばくはん〔食〕麥の飯

破魔弓はまゆみ〔雜〕新年に小兒の玩ぶ弓矢

履物はきもの〔雜〕足に着くべき下駄草履靴などの總名

箸箱はしばこ〔器〕箸を入れ置く箱

廢物はいぶつ〔器〕すたれもの

茅屋ぼうやく〔雜〕あばらや

砲臺はうたい〔雜〕だいば

魴鮒はうぼう〔博〕魚の名

砲碌はうろく〔器〕素焼の平たき土鍋の名、米、豆など炒るに用ふ

白金はくきん〔博〕ぶらちな

麥酒ばくしゆ〔食〕ビール

羽子板はこいた〔器〕羽子をつく板

盤臺はんたい〔器〕肴などを入るるもの

手帕てんぱち〔雜〕西洋人の用ゆる手拭

齒磨はみがき〔雜〕楊枝に付て齒を磨くに用ゆる粉

蛤はまぐり〔博〕海産の動物

【五】

發動機はつどうき〔器〕動く機械

發信機はつしんき〔器〕たよりを起す機械

發電機はつでんき〔器〕電氣を起す機械

花筐はなかご〔器〕花を摘み入るる籠

磐石ばんじやく〔博〕大なる岩

箱火鉢はこひばち〔器〕箱形に造れる火鉢

挾箱はさみばこ〔器〕衣服など入れて擔ふ様に造りたる箱

褒狀ほうじやく〔雜〕事を褒むるに與ふる書付

庖丁はうちやく〔器〕料理に用ふる刃物

博多帶はかたおび〔衣〕博多より産する帶

葉鷄頭はげいとう〔博〕植物、草の名

解船げいせん〔器〕解に用ふる船、傳馬船

半鐘はんしやう〔器〕非常を報ずる鐘

花簪はなかんざし〔雜〕諸種の花の形に作りたる簪

離座敷はなれざしき〔住〕棟を別にし座敷

絆創膏ばんさうかう〔雜〕傷口を閉づるに用ふる膏藥

反射鏡はんしやくきやう〔器〕光を反射せしむる鏡

爆裂彈ばくれつだん〔雜〕彈丸の一種、烈しく破裂するもの

柱時計はしらどけい〔器〕柱などに掛造れる時計

望遠鏡ぼうえんきやう〔器〕遠方を見る鏡

般若湯はんにやたう〔食〕僧侶の用ゆる酒の隱語

【三】

庭には〔雜〕堂屋階前の平地の稱

韭菹はら〔博〕菜の名、ネギに似たり

二階にかい〔住〕家の上に又ある家

荷足にたり〔雜〕川に用ふる運漕船の一種

荷鞍にくら〔雜〕荷馬におく鞍

荷札にふだ〔器〕荷主の名などを記して荷に附くる木札

膠にかは〔雜〕牛の皮を煮たるもの、物をつき合すに用ふる



**鮭** (博) 魚の名、東北の海に多し

**荷車** (雑) 荷を積みて運ぶ車

**乳鉢** (器) 薬を煉り又は細末にするに用ふる鉢

**錦繪** (雑) 彩色を施したる木版の繪

**鶏** (博) 鳥の名、常に人家に飼ふ

**人參** (博) 野菜

**二絃琴** (器) 絃二筋の琴、八雲琴

**濁酒** (食) 糟を漉さずして用ふる一種の酒

**人形** (雑) 木又は土を以て子供の玩物とするもの

**匂袋** (雑) 種々の香料を包みたる袋

**肉襦袢** (衣) メリヤスにて作れる襦袢

**西陣織** (衣) 京都の西陣にて織り出す絹布の織物

**二重廻** (衣) 衣服の上にて外套の一種なり

【ほ】

**帆** (器) 船を走らす具

**盆** (器) 縁淺く扁平にて物を載するに用ふる木製の器

**母衣** (雑) 馬車人力車などの上に被ひとすもの

**簿記** (雑) 西洋式の帳簿

**鯰** (博) 魚の名、いなの大なるもの

**襪** (雑) 布帛、用ひ舊しりたるもの

**焙爐** (器) 木のワクを紙にて張りたるものに茶を乾かすに用ふる

**埃** (雑) 塵の細かに飛び散るもの

**糲** (食) 飯を日に乾かしたるもの

**牡丹** (博) 植物の一種

**卸** (器) 洋服及シャツにつけたるもの

**螢** (博) 夏の蟲

**布袋** (雑) 七福神の内の一神

**唧筒** (器) 消防用の具

**雪洞** (器) 紙製の蓋ひある燈器

**本箱** (器) 書物を入るる箱

**盆栽** (雑) ばちうゑ

**木刀** (雑) 木にて作りたる刀

**硼酸** (博) 薬品、防腐劑、白色の粉末なり

**奉書** (器) 紙の一種

**繻帶** (器) 外科に用ふる布

**蓬萊** (器) 新年の飾物の一種

**鳳凰** (雑) 支那にて想像せる瑞鳥の名

**乾海苔** (食) 海苔を紙のしたるもの

**檣** (器) 船にて帆を掛けるに用ふる柱

**酸漿** (博) 草の名、實熟すれば口に入れて鳴す

**哺乳器** (器) ちちすひ器

**時鳥** (博) 鳥の名、此の他比鴉(トケン)子規(シキ)不歸(フニヨキ)杜宇(トウ)等の字を用ふ

**帆掛船** (雑) 帆をかけたる船

**補血劑** (雑) 身體の血をふやす薬

**奉加帳** (器) 寄進奉加の帳

**舳** (雑) 船の前の部分

**塀** (雑) 垣。板塀

**紅** (雑) 紅花の瓣を以て製せる染料

**篋** (器) 竹片を細長く平たく削れるもの

**豹** (博) 虎に似たる獸

**蛇** (博) 虫の一種

**瓣** (博) 植物のはなびら

**部屋** (住) 家の内の分ちたる座敷



瓶子 (器) 用ふ 形細長くして酒を盛るに

丝瓜 (博) 植物、實を採りてたわしとなす

便殿 (雑) 天皇の御休息の間

瓢箪 (器) 花見などに酒を盛りて行くもの

兵兒帶 (衣) 男のしごき

別荘 (住) 離れたる地に別に設けたる家屋

【と】

砥 (博) 又物を磨くに用ふる石

床 (雑) れどこ。疊の心

樋 (器) 屋根の端に付けて雨滴を受けるもの

屠蘇 (食) 一年の邪氣を掃ふとて正月元旦に味醂酒に浸して飲む薬

土器 (器) かばらけ

鳶 (博) 鳥の名、形鷹に似て稍大なり

苫 (器) 菅、茅などを編みて造れるもの、船などの屋根を覆ひ雨露を防ぐ

艦 (雑) 船の後邊

虎 (博) 猛獸の一種、亞細亞大陸に多し

泥 (博) 土の水に雜りて融けたるもの

土橋 (雑) 土を盛つて作れる橋

鳥居 (雑) 二本の柱の上に取りたる神社の門

戸棚 (雑) 戸のある棚

土藏 (雑) 土にて厚く塗りたる庫

把手 (器) 器具の柄又はつまみ

緞子 (雑) 織物の名

德利 (器) 瓶形の口狭き陶器にて酒の類を入るもの

時計 (器) 時刻を測り知る機械

襦袍 (衣) 衣服に厚く綿をに入れて冬、羽織の如く着物の上に着るもの

投網 (器) 流りに用ゆる網

銅壺 (器) 銅にて造れる湯

豆腐 (食) 大豆にて製す

兜巾 (器) 修験者の被る頭巾の如きもの

木賊 (博) 草の名

鶏冠 (雑) 鶏のかんむり

鱈 (博) どちやうを見よ

船渠 (雑) 船を造り又修復する處

土瓶 (器) 陶製の器、湯を沸し茶を煮るに用ふ

扉 (器) 開戸のこと

蜻蛉 (博) とんばうを看よ

圖書 (雑) 書籍、地圖の類

綴絲 (雑) 綴ぢる糸

胴締 (雑) 紐又は革の幅狭き帯

胴巻 (雑) 錢など入れて腹に巻きつける細長き袋

濁醪 (食) 濁酒の滓を漉さぬもの

戸袋 (雑) 雨戸を入れ置く處

富籤 (雑) 富興行に用ふる籤

鳶口 (器) 鳶の嘴の如き鐵鉤を棒の端口に着けたるもの

燈火 (雑) 點じたる火

冬瓜 (博) 野菜の一種

銅貨 (器) 銅にて造れる貨幣

燈臺 (雑) 燈明臺の略、暗夜船舶の航海を安全ならしむるもの

燈籠 (器) 燈火を灯す具

毒藥 (博) 藥品、人を死に致らしむる藥、モルヒネの如き種類

常夏 (博) 草の名、野生の撫子の異名

鱈 (博) 魚の名、淡水に生ずる鱈に似て短かし

都々逸 (雑) 俗話の一種

團栗 (博) くぬぎ、かしな

弗匣 (器) 金庫の異名

纜 (器) 船を繋ぎ止むる綱



井いど (器) 皿に似て深き具

蜻蛉とんぼ (博) 虫の名

隧道とんねる (雑) 山の腹、川底等  
を穿ちて道路、  
鐵道などの  
通路とする處

遠眼鏡とほめがね (器) 遠方のもの  
を近く見す  
る眼鏡

緞帳とんちやう (雑) 染模様などに  
筋を一筋づつ異  
色に染めあるもの

床柱とこばしら (雑) 床間の前の左右  
にある柱

心太こころてん (食) 心太草にて製し  
たるもの醬油酢  
などにて喰ふ

鳥子紙とりこがみ (雑) 雁皮と楮に  
て渡たる紙

圖書館とくしょくわん (雑) 多くの圖書  
を備へ置き  
一般に閲讀せしむる處

鳥打帽子とりうちぼうし (雑) 遊獵の  
に被る一種の暑帽

【ち】

軸ちく (雑) 車の心木。すべて物  
を巻くに用ふる心木

地圖ちず (雑) 土地を平面に見  
たる状に寫した

狛ちん (博) 狗の一種

茶ちや (博) 樹の名、葉を採りて  
湯を注ぎて呑む

塵ちり (雑) ごみ、土砂などの飛  
び散るもの

千鳥ちどり (博) 水禽の名、海邊  
又河に群り飛ぶ

猪口ちとせ (器) 陶製の形小き盃

粽ちまき (食) 糯米を水に浸し笹の  
葉に巻いて煮たるもの  
端午の節句に祝ひ食す

塵取ちりとり (器) 塵芥などを取り  
集めて棄てる具

縮緬ちりめん (雑) 絹織物の名。よ  
り糸にて織り縮  
ませたるもの

千代紙ちよがみ (雑) 紙の名。彩  
色にて花紋  
を摺りたるもの

地球儀ちゆうきぎ (器) 球状にして  
表面に地球  
上の海陸緯緯を圖せしもの

茶釜ちやがま (器) 茶を煮るに用ふ  
る釜

茶碗ちやわん (器) 茶を飲み又は飯  
を盛るに用ふる

茶盆ちやぼん (器) 茶碗などを載す  
るに用ふる盆

茶瓶ちやびん (器) 茶を煎するに用  
ふる瓶

茶壺ちやつば (器) 製茶を貯ふる壺

茶臺ちやたい (器) 茶托(チャタケ)を載す  
る臺

茶筌ちやせん (器) 抹茶を掻きまぜ  
るに用ふるもの

茶棚ちやだな (雑) 茶器を載する棚

陣笠ちんがさ (器) 戦場に被る笠

散蓮華ちりれんげ (器) 蓮華の瓣に  
似たる小く  
短き陶製の匙

違棚ちがひだな (雑) 棚を左右に釣り  
ちがへたるもの

帳面ちやうめん (雑) 金銭物品の出納  
のこことなどを鼓  
載する冊子

蓄音器ちくおんき (器) 物の聲を蓄  
の音聲を聞くが如く作れる  
器械

定紋ぢやうもん (雑) 先祖より代用  
ひ來れる紋所

茶菓子ちやくし (食) 煎茶に添ふ  
る菓子

茶簞笥ちやだんす (雑) 茶道具を載  
せおく棚あ  
る匣

重臺ぢゆうたい (器) 足ある膳にて重  
箱を載するもの

地引綱ぢひきあみ (雑) 地引に用ふ  
る大なる綱

陣太鼓ちんたいこ (器) 昔、戦場に  
用ひし太鼓

陣羽織ちんばおり (衣) 鎧具足の  
に着る羽織

地雷火ぢらいくわ (博) 地下に火薬  
を埋め敵來  
りて踏む時火を發する仕掛  
あるもの

秩父銘仙ちちぶめいせん (衣) 織物の  
名

鎮經劑ちんけいざい (雑) 神經作用の  
強きを鎮む  
る藥

鎮痛劑ちんつうざい (雑) 痛みを止む  
る藥

中幅帶ちゆうはちおび (雑) 中幅布にて  
製したる帶

重炭酸曹達ぢゆうたんさんそうだつ (博) ア  
カリ性を含む礦物の名

貯蓄債券ちよちくさいけん (雑) 勸業銀  
行より  
賣出せる債券一枚五圓

鎮經劑ちんけいざい (雑) 神經作用の  
強きを鎮む  
る藥

鎮痛劑ちんつうざい (雑) 痛みを止む  
る藥

中幅帶ちゆうはちおび (雑) 中幅布にて  
製したる帶

重炭酸曹達ぢゆうたんさんそうだつ (博) ア  
カリ性を含む礦物の名

貯蓄債券ちよちくさいけん (雑) 勸業銀  
行より  
賣出せる債券一枚五圓

【り】

磷りん (博) 非金屬元素の一

鈴りん (雑) すず

龍りゆう (雑) 想像の動物



林檎 (博) 果物の名

綸子 (衣) 織物の一種

硫酸 (博) 硫黄と酸素を化合せしもの

離隔室 (住) 離れ隔りたる室

理髮所 (雑) かみゆひど

龍腦 (雑) 樟腦を製練したるもの

旅館 (雑) 宿屋

旅行券 (雑) 旅行するに手形とを許したる

糧食 (食) 兵糧

琉球紬 (衣) 琉球にて産する紬

離縁状 (雑) 離縁する由を記して與ふる證書

領事館 (雑) 外國に在つて自國の用務を掌るもの

陸軍省 (雑) 陸軍の事を統ぶる省

【ぬ】

鵠 (雑) 想像の怪獸

糠 (雑) 米をつく時皮の粉となれるもの

布 (雑) 麻。葛などを糸にして織れるもの

幣 (雑) 神に祈るに奉るもの

純 (衣) シユスに類する絹織物の名。光澤多し

蓴 (博) じゆんさいを看よ

布子 (衣) 絹布にて仕立てたる綿入の衣服

塗膳 (器) 漆にて塗りたる膳

縫箔 (雑) めひものに金糸銀糸を加へたるもの

糠味噌 (雑) 漬物に用ふる

縫絲 (雑) 物を縫に用ふる糸

縫針 (器) 物を縫ふに用ふる針

糠袋 (雑) 糠を入れて膚を洗ふに用ふる小袋

【る】

瑠璃 (博) 寶玉の類を云ふ

坩堝 (器) 金屬をとくすに用ふる器

壘壁 (雑) とりで

【を お】

緒 (雑) 糸、紐などの總稱

斧 (器) 鍔に似て小きもの。木を伐るに用ふる

桶 (器) 筒をかけたる木製の圓き器

箴 (器) 機具、細き竹を密に列れて櫛の齒の如くしたるもの

帯 (衣) 衣服の上を腰のあたりに結ぶもの

檻 (雑) 猛獸、狂人、罪人などを入置く所

折 (器) 片木板を折り曲げて作れる粗なる小匣

麻索 (雑) 麻にてなへる繩

帶地 (衣) 帶に用ふる織物

飯汁 (食) 粥の甚だ薄きもの

押繪 (雑) 帛にて繪のやうに作りたるもの

萬年青 (博) 草の名

母屋 (住) 家の中央なる棟梁の下處。専ら住居に用ひる家

置床 (住) 座敷の床間なき所に据置くやうに作れる床

押入 (住) 家財を押し入れておく戸棚

押縁 (雑) 物のおさへにうち付くる細く長き竹木の稱

白粉 (雑) 婦人の化粧に用ふるもの

帶革 (雑) 革にて作れる帶

帶側 (衣) 女の帶に用ふる織物

帶留 (雑) 帶の解けぬやうに締むるもの

玩具 (器) 子供のもてあそびもの

狼 (博) 獸の名

澤瀉 (博) 池澤に生ずる草。くわゐに似たり

織物 (衣) 木綿、絹、麻等にて織り成せるもの稱

鴛鴦 (博) 鳥の名



鬼瓦 (雑) 屋根の棟の端に置く大なる瓦

奥座敷 (住) 家の奥の方の座敷

臘臍 (博) 海獣の名

女郎花 (博) 秋の七草の一種

御高祖頭巾 (雑) 巾頭

踊屋臺 (雑) 祭禮の遊物

【わ】

輪 (器) 車の左右にありて軸にて支へ廻らして車を進ませしまる具

藁 (雑) 稲又は麥の莖を刈り乾したるもの

早稻 (博) 稲の一種、最も早く熟するもの

椀 (器) 食物を盛り分けて食ふに供ふる器、多くは製

和本 (雑) 日本風に仕立てたる本

和服 (衣) 日本の衣服

若布 (博) 海藻の名

山葵 (博) 草の名

蕨 (博) 草の名

割箸 (器) 一本の杉箸に割食ふ時二本とするもの

綿入 (衣) 衣の表裏ありて綿をこめたる物

縮物 (器) 檜、杉などの薄き材を縮げて作るもの

草鞋 (雑) 藁にて作れる履

渡船 (雑) 渡し場にて人物を載する船

綿帽子 (雑) 真綿を摘みひろげて造れる帽子

【か】

蚊 (博) 虫の名

權 (器) 船を動かすもの

型 (器) 細工物の一定の形をとる具

粥 (食) 御飯を柔らかく煮たるもの

鐘 (器) つりがれ

鉦 (器) たたきがれ

釜 (器) 湯を沸し、飯を炊ぐ器

鎌 (器) 稲柴草などを刈るに用ふる具

籠 (器) 竹にて編み造れる器の總稱

笠 (器) 雨、日光を防ぐ爲に頭に戴くもの、總稱

鍵 (器) 錠を解き開く具

鈎 (器) さきの曲りて物に懸けて引くに用ふる物

甕 (器) 水又は酒などを入るる陶器の總稱

紙 (雑) 物を書き又は物を包むなど種々の用をなすもの

柁 (器) つむにて取りたる糸を巻く具

家具 (器) 家の器具

蚊帳 (雑) 夏の夜蚊を防ぐに用ふる帳

駕籠 (器) 人を載せて二人にて昇り行く具

柿 (博) 果物の名

蠣 (博) 海産の動物

樅 (博) 植物、喬木の一種

瓦斯 (雑) 石炭より採りて燈火に供す

舵 (器) 船の方向を轉するもの

蟹 (博) 水産動物の名

鐵漿 (雑) おはぐろのこと

蕪 (博) 野菜の一種

龜 (博) 水陸兩棲動物

鴨 (博) 鳥の名

榎 (博) 喬木の名

茅 (博) すげ、すすきなどの總稱

雁 (博) 鳥の名

瓦 (雑) 泥土にて作り屋根を葺くに用ふ

鞆 (器) 草又はズツクなどに造れる手提匣

鏡 (器) 質又は物の形などを映し見るに用ふる具

鼎 (器) 昔食物を煮るに用ひし器の名

鉋 (器) 材木の面を削りて平にする刃物の名



吠かみす [雑] 藁席にて造れる袋  
 格子かやし [雑] 細き木を組みたる戸  
 框かまち [雑] 戸障子などの圍りのわく。床の上の横木の  
 竈かまど [雑] 土石煉瓦などにて築き釜鍋をのせて物を煮るやうにしたるもの  
 笕かけひ [器] 地上に高く架けて水を引く樋  
 家屋かや [住] いへ  
 合羽かっほ [衣] 外套の一種雨雪の降る時に用ふる  
 金具かなぐ [器] 金屬製の器物の總稱  
 樂器がくき [器] 音樂に用ふる器  
 家財かざい [器] 家の中にて用ふる道具の總名

蠶かひこ [博] 虫の名  
 厠かばや [雑] 便所  
 鯉かつせ [博] 魚の名  
 髮かつら [器] 俳優などの頭に被るもの  
 河童かつば [博] 想像の動物  
 鍛冶屋かぢや [雑] 鐵類を細工する家  
 柏かしは [博] 植木の名  
 鰈かじか [博] 魚の名、淡水に生ず  
 烏からす [博] 鳥の名  
 糶かうち [食] 米にかびを生ぜしめたるもの(麴)の字も用ふる

伽藍がらん [住] てら  
 行李かうり [器] 衣類其他を入れたる携帯に便せるもの  
 香爐かうろ [器] 香を薫るに用ゆるもの  
 案山子かざんし [雑] 田畑に立てて鳥獸を怖すもの  
 篝かざり [雑] 夜中の警固、或は漁獵に用ふる燈火  
 神樂かぐら [雑] 神前に奏する舞樂  
 河鹿がじか [博] 鳴く聲鹿に似てこの名あり、蛙の一種  
 兜かぶと [器] 昔戰場に用ひし被りもの  
 楓かへて [博] 樹の名

蛙かへる [博] 虫の名  
 鷗かもめ [博] 鳥の名  
 鬘かまじ [雑] 女の髪に用ふるもの  
 芥子からし [食] 調味料  
 硝子がらす [器] びいどろに同じ  
 骨牌かるた [器] 玩具の一種  
 鰈かれ [博] 魚の名  
 標かんじき [雑] 寒國にて雪の降る時に足に履く物  
 冠かんむり [雑] 頭上に被るもの、總稱  
 簪かんざし [雑] 婦人の頭髮に差す飾りの具

搔卷かひまき [衣] 夜着の小さく綿を薄く入れたるもの  
 土器かはらけ [器] 土焼の杯の稱  
 門松かどまつ [雑] 年の初めに家家の門先に飾り立つる松  
 門札かどやた [雑] 門にはりつけおく木札  
 狩衣かりぎぬ [衣] 昔の官服の名  
 肩衣かたぎぬ [衣] 昔武家にて用ひし小禮服  
 帷子かたばら [衣] 苧麻にて織りたる單衣  
 金物かしのもの [器] 金類にて造れる器具の總稱  
 唐紙からかみ [雑] 種々の美しき模様ある紙  
 爛酒かんざけ [食] 爛をしたる酒

額縁がくぶち [雑] 扁額のわく  
 角帽かくぼう [雑] 大學帽  
 釜敷かましき [器] 釜を置く時にその下に敷く具  
 掛額かけがく [雑] 掛け置く額  
 掛金かけがね [器] 戸障子などを鎖す具  
 海藻かいそう [博] 海藻、昆布、荒布、海苔の類  
 海棠かいだう [博] 樹の名  
 海綿かいめん [博] 海産物  
 笄かすがい [器] 婦人の髪に挿みて飾りとするもの  
 蝙蝠かろうり [博] 動物の名



**膏藥** (博) 或る藥品を單軟膏に和したる物

**鵲** (博) 鳥の名

**鋸屋** (雜) 金屬にて種々の細工をする家

**鋸** (器) 兩頭に曲りて尖れる大釘

**蒲燒** (食) 鰻をてり焼にしたるもの

**南瓜** (博) 野菜の一種

**蒲鋒** (食) 鮫などの肉にて造りし食物

**剃刀** (器) 髪をそる具

**看板** (雜) 商店の目標とせるもの

**活版** (雜) くわつばんを看

**甲板** (雜) 船舶の床

**雁皮紙** (雜) 紙の一種

**冠** (器) 頭に被るもの

**乾鮭** (食) 鮭の腸を去りて乾したるもの

**鏡餅** (食) 昔武家にて正月今のお供への謂

**片手桶** (器) 取手の片方にある桶

**金盃** (器) 眞鍮又は銅にて作りたる手水盃

**硝子窓** (雜) 硝子にて張りたる窓

**烏口** (器) 圖引の器具。線を引くに用ふ

**懸時計** (器) 柱などに掛けおくと計

**杜若** (博) 草花の名

**貸座敷** (雜) 遊女屋、青樓

**蝸牛** (博) 虫の名

**海産物** (雜) すべて海中に産する物

**線人形** (雜) からくり仕掛けにて動く人形

**寒暖計** (器) 氣候の寒暖を計る器具

**寒冷紗** (雜) 織物の名

**蝙蝠傘** (器) さし傘の一種

**春日燈籠** (雜) 燈籠の一種

**海軍省** (雜) 海軍の事を統へ掌る省

【よ】

**夜着** (器) 衾の一種。衣の如く入れてたるもの

**寄席** (雜) 藝人等が人を集める所

**鎧** (衣) 戦争の時着る武器

**四手** (雜) よつであみの畧

**浴衣** (衣) ゆかた

**葦簀** (雜) 葦にて編みたる簀

**葦戸** (雜) 葦簀を張りたる戸

**蓬** (博) 草の名

【四】

**繕糸** (雜) より合せたる糸

**浴室** (雜) 浴殿(ヨクテン)のゆどの

**横笛** (雜) 横にもちて吹く笛

**鎧櫃** (器) 鎧を藏め置く櫃

**四手網** (雜) 竹にて四隅を張りたる網

**四目垣** (雜) 竹を粗く組みて方形の垣

**四目錐** (器) 又四稜ある錐

**四幅布團** (名) 布四幅の團

**呼子笛** (雜) 人を呼ぶ合圖の笛

【た】

**涎掛** (雜) 小兒の顔の下に掛けて涎を受けしむるもの

**米澤紬** (衣) 織物の名

**米饅頭** (食) 米の餅に餡を包みたるもの

**臺** (雜) 几案などすべて物を載する物の總名

**館** (住) 官吏などの假りに宿する家。やどや。や

**樽** (器) 流動體のものを貯ふるに用ふる桶

**棚** (雜) 板を平に亘しかけて物を載するもの

**卓** (器) つくろ



**楯** (器) 戦場にて矢丸を防ぐ具

**箆** (雑) 竹を縛れて輪とせるもの

**花車** (雑) 祭禮の時引き出す飾り車

**足袋** (雑) 足にはくもの。布にて造る

**鷹** (博) 鳥の名

**蛸** (博) 海産の動物

**壇** (雑) 物を据ゑんが爲めに少し高く構へ作れるところ

**鱈** (博) 魚の名

**薪** (雑) まき。たきもの

**大厦** (住) 大なる建物

**太鼓** (雑) 樂器の名

**襷** (雑) 仕事する時袖を束ねる紐の名

**疊** (雑) 薦、席、薄縁の類

**駝鳥** (博) 鳥の名、多く熱帯地方に産す

**卵** (博) 卵生動物の胎

**盥** (器) 扁くて湯水を盛りて物を洗ふに用ふる桶

**袂** (衣) 袖の下の袋の如くなれるところ

**烟草** (雑) 烟草の葉を刻みたるもの

**手綱** (雑) 馬を御する綱

**團子** (食) しんこ餅をまるめたるもの

**簞笥** (雑) 大なる匣の横にあるもの

**擔架** (雑) 戦時負傷者を載せてはこぶ具

**煖爐** (雑) すとおぶ。ぬり

**髻差** (雑) 婦人の髻を張出包み入るる紙製の具

**髻止** (雑) 婦人の髻の毛の散らぬやうに挟み置く具

**高坏** (器) 菓子などを盛る器

**高帽** (雑) 形の高き帽子

**種板** (雑) 寫眞を撮るに用ふる硝子の原板

**短册** (雑) 和歌などを書する料紙

**短刀** (雑) 短きかたな

**短艇** (雑) 西洋形の舟

**段通** (雑) 毛織物にて敷物に用ふる

**鍛鐵** (博) きたへたる鐵

**駄菓子** (食) 粗末なる菓子

**濁酒** (食) にこりざけ

**玉垣** (雑) 神社の垣

**竹垣** (雑) 竹にて作りたる垣

**蛸壺** (器) 蛸を捕ふる器

**立札** (雑) 木札に書を記して人に示すもの

**打診器** (器) 醫師の打診に用ふる器

**大根** (博) 野菜の名

**橙** (博) 木の名

**松明** (雑) 松の脂多き處を束れて火を點すもの

**筍** (博) 竹の初生の名

**橘** (博) 植物の名

**蒲公英** (博) 草の名

**太鼓橋** (雑) そりばし

**臺所** (雑) 人家にて煮炊きするところ

**臺衡** (器) 臺のつきたるはかり

**臺帳** (雑) 商家にて記し置くとする帳面

**大理石** (博) 石灰質より成り寒水石に似て更に良質のもの

**煙草入** (雑) 煙草を入るる具

**煙草盆** (器) 火入灰吹などの具を載せたる箱

**高足駄** (雑) 齒の高き足駄

**竹箒** (雑) 細き竹の枝を束ねて作りたる箒

**種油** (雑) 菜種より搾り取りたる油

**玉子酒** (食) 酒に鶏卵を暖めたるもの

**玉手匣** (器) 種類の貴重品を秘め置く匣



竹矢來 (雑) 竹にて編みたる櫛

唐辛 (博) 草の名

彈丸 (雑) 鐵砲のたま

大黒柱 (住) 家の中央に建てたる太

大福餅 (食) 菓子の名。餅に餡を包み圓く扁めたるもの

大禮服 (衣) 重き儀式に用ふる禮服

大厦高樓 (住) 大なる家と高き二階と

臺十能 (器) 臺のつきたる十能

裁物板 (雑) 布帛又は紙に用ふる板

高張提灯 (雑) 長き竿提灯をつけて高く掲ぐる物

探海燈 (雑) 軍艦の上なを探るに照す燈

玉蜀黍 (博) 植物の名

【れ】

鈴 (器) 佛具。リンに同じ

圀固 (雑) 牢屋

靈符 (雑) まもりふだ

輦輿 (雑) てぐるま。みこ

櫺子 (雑) 窓につけたる格

蓮華 (博) はすのはな

禮物 (雑) 禮として送るもの

禮帽 (雑) 禮服を着用する時に被る帽子

禮服 (衣) 儀式の時に着る衣服

靈藥 (雑) 不思議なる効驗ある藥

靈廟 (雑) たまや

料理屋 (住) 客に酒肴をとする家

煉瓦 (雑) 瓦の一種

櫺子窓 (雑) 格子のつきたる窓

練習艦 (雑) 海軍にて平めに用ふる船

【そ】

橇 (器) 寒國にて雪の積れる上を乗り行く具

袖 (衣) 衣の兩腕を被ふもの

粗朶 (雑) 樹の枝を伐り取れるもの

蕎麥屋 (雑) 蕎麥類を賣りて賣る家

粗飯 (食) 粗末なる飯

粗茶 (雑) 粗末なる茶

粗菓 (食) 粗製の菓子。ますき菓子

粗酒 (食) 味の劣れる酒

率塔婆 (雑) 死者の後に墓場に建つる細長き板

鹿景 (雑) 粗末なる景物

蔬菜 (雑) 野菜物

算盤 (器) 和算に用ふる具

反橋 (雑) 橋の中央の高く反りたるもの

村茗 (雑) ばん茶

層樓 (住) たかどの。二階三階などの家

袖垣 (雑) 物に添へて一段低く造れる垣

束帶 (衣) 正禮に用ゆる裝束

素麵 (食) さうめんの誤

空豆 (博) 野菜、豆の一種

速記録 (雑) 速記術にて記したるもの

俗曲 (雑) 俗間に行はるる音曲

袖搦 (衣) 人を搦め捕ふる具

卒業證書 (雑) 卒業の書付

損料蒲團 (衣) 損料を貸す蒲團

測候所 (雑) 天候を観測するたために設けたるもの

測量艦 (雑) 海底を測量するに用ふる軍艦

測量器械 (雑) 測量に一切の用具



杖

〔器〕老人のつくもの

鉉

〔器〕鍋の

弦

〔器〕弓の

蔓

〔博〕草の

鶴

〔博〕瑞鳥

褌

〔衣〕衣服の

筒

〔器〕丸く長くして中の空なる管

塚

〔雑〕土を高く盛りて墓としたるもの

柄

〔器〕刀劔の握むべき所

黄楊

〔博〕植物の名、木版櫛其他の細工物

厨子

〔器〕佛などを安置するもの

蔦

〔博〕蔓草の一種

槌

〔器〕物を叩くに用ゆる木製の具

苞

〔雑〕物を藁などに包みたるもの、納豆の如きもの

綱

〔雑〕繩紐の太きもの

鏢

〔器〕刀劔類の

妻戸

〔住〕舞戸にて兩方へ開くもの

頭巾

〔衣〕頭に被る袋の如きもの

土筆

〔博〕草の名

机

〔器〕讀書する臺

躑躅

〔博〕灌木の一種

鼓

〔器〕革を張りて手に持て打ち鳴らす樂器

葛籠

〔器〕衣類を入れる籠竹類にて編む

椿

〔博〕植物の名

燕

〔博〕つばくらめに同じ鳥の名

蕾

〔博〕花の未だ開かぬもの

紬

〔衣〕粗なる繭より取りたる糸にて織る絹布

釵

〔器〕中央の尖れる刀

釣瓶

〔器〕水を井戸より汲み上ぐるもの

鶴嘴

〔器〕地を穿つに用ふる器

衝立

〔器〕ふすまの如にて立てて物を遮るもの

佃煮

〔食〕雑魚、小貝類を醤油にて煮染たるもの

漬物

〔食〕野菜を種種のものに漬けたる物

辻占

〔雑〕小さき紙に種々賣るもの

筒袖

〔衣〕袂のなき衣服

壺焼

〔食〕榮螺の肉を刻みて煮焼したるもの

爪掛

〔器〕足駄に掛けるもの

釣針

〔器〕釣に用ゆる針

釣竿

〔器〕釣に用ゆる竿

角隠

〔衣〕婦人の嫁入などに用ふる一種の帽子

頭陀袋

〔雑〕死者を葬る時首にかけたる袋

【ね】

根

〔博〕植物の

閨

〔住〕夜寝る爲に設けたる部屋

葱

〔博〕野菜の一種

猫

〔博〕家畜の一

螺旋

〔器〕銅鐵類にて造るむるもの

根付

〔器〕巾着印籠などの緒の端に付る物

根掛

〔器〕婦人の髻に掛くる飾物

寝臺

〔器〕机の如くにて大く寢床に用ふるもの

鼠

〔博〕小動物

寐所

〔雑〕寝る所

涅槃

〔雑〕釋迦の死滅せるを云ふ

鼠不入

〔器〕食物などを子の如きものを儲へ置く厨

【な】

菜

〔博〕野菜の一種

納屋

〔住〕物を藏め置く小屋



梨 (博) 夏の果實

茄子 (博) 野菜の一

鉞 (器) 刃厚くして幅廣く物を打切る具

繩 (器) 葉などを細くひた

苗 (博) 草木の萌え出でたるもの

鍋 (器) 魚菜を煮るに用ゆる器

檜 (博) 植物の名

轅 (器) 車の柄の前方へ長く差し出たるところ

納戸 (住) 衣服の調度などを納め置く室

鳴子 (雜) 田島など凡鳥を威すに用ふる物

長屋 (住) 家の棟を長く建て軒一棟とせるもの

薺 (博) 草の名

棗 (博) 植物の名

海鼠 (博) 海産の動物

鱈 (食) 魚肉を細かく切りて酢に和したるもの

鮪 (博) 淡水の魚

鉛 (博) 金属の一

薙刀 (器) 長き柄の付きたる刀

鈍豆 (博) 野菜

納豆 (食) 大豆を蒸したるもの

撫子 (博) 草花の一種

南天 (博) 灌木の一

蛞蝓 (博) 水濕の處に棲む虫

長袴 (衣) 昔の禮服の一種より一尺ばかりの爪先

内務省 (雜) 地理、戸籍、圖書出版、衛生、等を掌る省

菜切庖丁 (器) 勝手道具

南京豆 (博) 豆の一種、落花生

南蠻鐵 (博) 鐵の一種、兜鍪などに作りて賣す

鳴海絞 (衣) 綿布の絞り染の一種

【ら】

欄 (住) てすり

羅字 (雜) 煙管にはめたる竹

蠟 (雜) 獸脂、鯨油などにて探る

蘭 (博) 根より叢生して細き葉の草

欄間 (住) 天井と鴨居との間格子

鸞輿 (器) 天皇の御料の輿

廊下 (雜) 家の内にて往來に用ゆる板の間

落語 (雜) をとせばなし

駱駝 (博) 亞細亞及亞弗利加に産する獸

羅紗 (衣) 西洋の毛織物

獵虎 (博) 海獸。氷海に棲む

喇叭 (器) 軍隊の懸引に用ゆる器

洋燈 (器) 硝子製の灯をと硝子器

樂燒 (器) 手つくれの土焼碗にす

蠟燭 (雜) 蠟にて作る、灯をとすもの

欄干 (雜) 橋の

羅針盤 (器) 方角を測り知る器

落款 (雜) 書畫の出來上りたる時筆者の證として印又は名を畫すこと

辣韭 (博) 野菜の一種

蘭陵王 (雜) 舞樂の曲名

【む】

鞭 (器) 馬の進まぬを打ちて痛く進ましむるもの

棟 (住) 屋根の上の最も高きところ

室 (住) 冬寒を畏るゝ花木などを收め置く家

麥 (博) 五穀の一

蓆 (器) 筵の字をも用ふ藁蒲藁などに編み造れる敷物

襠褌 (衣) くふぎぬ。しめ

百足 (博) 陰濕の地に生ずる虫

貂 (博) 猩の屬



無盡 (雑) たのもしに同じ

麥藁 (雑) むぎのわら

紫 (雑) 色的一種

土龍 (博) 土中に棲みて蚯

蒸菓子 (食) 餅菓子の蒸

蒸羊羹 (食) やうかん物の

【う】

鵜 (博) 水鳥、能く水に没し

蛆 (博) 虫の名、蠅の卵より

白 (器) 穀類をひきて粉にする

獨活 (博) 野菜の一

雲丹 (博) 貝の名

臺 (住) 樓、屋根なくて四方

五加木 (博) 灌木の名

兔 (博) 小獣の名

謠 (雑) 能に合せて歌ふ一種

團扇 (器) 風を起すに用ゆ

鶉 (博) 小鳥の名

鰻 (博) 淡水に産する魚

漆 (博) うるしの木の脂漆器

植木 (博) 植物を庭などに

鱗 (博) 魚の

蟒蛇 (博) 蛇の類の極めて

潮煮 (食) 吸物の一科の鯛

埋木 (雑) 年久しく土中に

薄縁 (住) 疊の表の如き蓆

鶯 (博) 小鳥の名

空蟬 (博) せみの抜がら

餛飩 (食) 小麦粉より製し

【く】

鍬 (器) 土石を掘り起す具、

靴 (器) 足に履きて歩くに用

鞍 (器) 馬の背にのせ人の乗

釘 (器) 材板などつぎ合せ

櫛 (器) 細かき齒ありて髪を

熊 (博) 植物の名

蜘蛛 (博) 小虫の名

優曇華 (博) 一種の虫の

餛飩粉 (食) うんどんに

浮袋 (雑) 游泳の具

梅醬 (食) 梅干の肉をたた

歌骨牌 (雑) 百人一首の

姥櫻 (博) 彼岸櫻に同じく

【の】

糊 (雑) 飯、しゃうふなどを

鑿 (器) 工匠の具、材木に孔

海苔 (食) 海中に産する一

能 (博) 謡曲に合せて種々の

蚤 (博) 細小なる虫

狼烟 (雑) 軍中に打ち揚ぐる

幟 (雑) 旗の類、布の横に許

延金 (雑) 刀の俗言

鋸 (器) 木竹などを切る具、

暖簾 (雑) 商家にて軒に掲

能樂 (雑) 能を演ずる時奏



栗 (博) 喬木の名

藏 (住) 倉。物を納めて貯へ置くに用ふる家

厨 (住) 臺所

鑲 (器) 金屬にて作りたる輪の如きもの

轡 (器) 馬の口中にはましむる具

鎖 (器) 環を數多連れて長き綱とせるもの

鯨 (博) 海獸の名

藥 (博) 病を癒し又工業用に用ふる

櫟 (博) 植物の名

水鷄 (博) 水禽

車 (器) 輪を廻らして種々の運轉をなさしむる具

胡桃 (博) 喬木の名

慈姑 (博) 野菜の名

懷紙 (雜) 和歌又は連歌を書くに用ふる紙

懷爐 (器) 懷に入れて暖を取るもの

瓦礫 (雜) 瓦と小石と

鞍坪 (器) 鞍の上の乗るべきところ

軍扇 (器) 大将の軍勢を指揮するに用ふる扇

潜戸 (住) 潜りて出入する小様に作りたる小

草摺 (住) 鐵の腰に分れて垂れる短き裙

串柿 (食) 柿の實に皮を去り竹串にさして干したるもの

釘拔 (器) 打ち込みたる釘をぬきとる具

紵針 (器) 針

孔雀 (博) 鳥の名

果物 (博) 木の實

山梔 (博) 灌木の名

花壇 (雜) 圓庭の草花を植ゑたるところ

滑車 (器) 車のまはり溝をつけてまばすもの

鎖鎌 (器) 鎌に長き鎖をつけたるもの

九谷燒 (器) 加賀の九谷磁物

礦物 (博) 金、石、土、砂、玉、化石、鹽、水等總て其機体の總名

活版 (雜) 活字の版

觀音開 (器) 戸びらの左中右より閉切たるもの

過去帳 (雜) 寺院にて死したる人の法名を記しておく帳

觀兵式 (雜) 天皇の親ら兵を閱し給ふ儀式

觀艦式 (雜) 天皇の親ら軍艦をけみし給ふこと

鎖帷子 (衣) 細かき鏈を襦袢の如く作れるもの

【や】

槍 (器) 武器の名

野羊 (博) 羊の屬

夜具 (衣) 衣着薄圍などの如き夜着て寝るもの

椰子 (博) 椰樹の實、多く熱帶地方に産す

梁簀 (器) すだれの如きもすだれの空所に當りて魚を承けてすふに用ふる

藥研 (器) 藥種を碎きて粉にする具、鐵にて製す

社 (雜) 神を祀れる所

櫓 (雜) 城壁城門の上に作れる樓のこ

鍬 (器) 矢の先に着る尖れる

鑪 (器) 鑪の目を立て又は金物を磨りへらすに用ふる具

矢立 (器) 旅行などに筆墨を仕込みて携ふるもの

鋏 (器) 鍛冶の熱鐵を挟む具

柳 (博) 樺木の名

藪蚊 (博) 蚊の一種

鰈魚 (博) 川魚の名

蜻蛉 (博) 虫の名稱

守宮 (博) 虫の名稱

楊枝 (博) 齒を掃除する具

羊羹 (食) 菓子の名



楊梅 (博) ヤマモモ

藥籠 (器) 藥品を収める具

藥罐 (器) 形土瓶に似て特  
に銅などにて造

流鏑馬 (雜) 騎射の式の  
名

山雀 (博) 鳥の一種

山鷄 (博) 鳥の名

山彦 (雜) こだま

山吹 (博) 灌木の名

柳筥 (器) 昔は柳の細枝を  
揉みて編み作れる  
後には三角なる白木の  
板にて脚を作れる

もの言ふ共に冠靴短冊  
などのするもの

柳樽 (雜) 角樽の類にして  
漆にて塗り太き  
たがなかけたる細長き樽

山鯨 (博) 猪のこと

屋形船 (雜) 屋形ある船

焼豆腐 (食) 豆腐を四角  
に切りて焼

藥袋紙 (雜) 雁皮紙の一  
種

八雲琴 (器) 琴の二絃な  
るもの

藪柑子 (博) 灌木の一種

藪枯 (博) 草の一種

山荒 (博) 獸の一種

奴豆腐 (食) 豆腐を小さく  
て水冷し醬油をつけて食ふ

八咫鏡 (器) 三種の神器  
の一

八尺曲玉 (器) 三種の  
神器の中の一

大和魂 (雜) 日本人固有  
の氣節

【ま】

眞帆 (雜) 順風にかけたる  
帆

楨 (博) 木の名

窓 (住) 壁に穿ち設けたる孔

枕 (器) 寝る時に頭を載せる  
具

鮪 (博) 魚の一種

燐寸 (器) スリツケギのと

纏 (器) 消防夫の一隊の標に  
用ふる具

蝮蛇 (博) 蛇の一種

曲玉 (器) 上世に絲にて貫  
き頭等の飾にして貫  
たるもの

曲物 (器) 杉檜などの薄き  
材を曲げて作れ  
るもの

毛氈 (器) 毛織の物の名

卷紙 (雜) 書簡を書くに用  
ふる紙の名

木天蓼 (博) 灌木の名

松茸 (博) 菌の名

眞名鶴 (博) 尋常の鶴の  
名

丸木橋 (雜) 丸木を渡せ  
る橋

丸木船 (器) 一本の木を  
幹を割りて  
作れる船

痲醉劑 (博) 痲すいせし  
むる藥

眞名鯉 (博) 海魚の一種

廻舞臺 (雜) 芝居の舞臺  
の中央を床  
に機ありて廻る様につくれ  
るもの

枕屏風 (器) 枕邊に立つ  
る低く小き  
屏風

豆人形 (器) 人形の甚だ  
小きもの

守本尊 (雜) その人の守  
となる本尊

眞帆 (雜) 順風にかけたる  
帆

楨 (博) 木の名

窓 (住) 壁に穿ち設けたる孔

枕 (器) 寝る時に頭を載せる  
具

【け】

守刀 (器) 身を護るための  
刀

守袋 (器) 守札を入るる袋

孟宗竹 (博) 竹の一種

抹香鯨 (博) 鯨の類

回合羽 (衣) 雨を防ぐ具

劇 (雜) 芝居

袈裟 (衣) 法師の肩に掛け  
衣の上に被る物

嬰子 (博) 草の實

下駄 (器) 履物の稱



樺 [博] 喬木の一種

競馬 [雜] 馬の競走のこと

輕羅 [衣] 輕きうすききぬ

系圖 [雜] 先祖より代々の家筋を記したる

蹴込 [住] 家の入口の靴脱の下

卦算 [器] 文鎮の一種

閨房 [住] ふしど、ねや

見臺 [器] 書物等をのせて見るに用ふる臺

舷燈 [器] ふなばたにとともす燈火

舷頭 [雜] ふはばた

劇藥 [食] 性のほげしき藥

消炭 [器] 薪の火をけして成れる炭

鷄頭 [博] 草の名

鷄卵 [博] 鷄の卵

幻燈 [器] 寫し繪のもの

警鐘 [雜] 火事など起りたる時つく鐘

肩章 [雜] 軍人などの禮服の肩に付くる飾

玄關 [住] 禪寺の客殿に入る門。人家の正面の入口

輕氣球 [器] 風船の稱

劇場 [雜] 芝居小屋

縣廳 [雜] 縣の官衙

月下氷人 [雜] むすぶのかみ

建仁寺垣 [住] 割竹を皮を外にして平たく結び並たる垣

警視廳 [雜] 警察のとなを掌る所

顯微鏡 [器] 微小のものを見る器具

【ふ】

譜 [雜] 系圖。音曲の曲節の次第を記したるもの

符 [雜] しろしの札。わりふだ

麩 [食] 小麥粉にて製したるもの

蓋 [器] 物の口を被ふもの

幅 [雜] 掛物のこと

畚 [器] 物を入れて運ぶに用ふる竹籠

笛 [器] 吹きてならす樂器の總稱

筆 [器] 文字又は畫をかくに用ふる具

總 [器] 絲を束れてその端を散らして垂らして飾とするもの

風呂 [器] 浴する湯をわかす桶

布施 [器] 僧に施す品物

鱧 [博] 鮫の一種

落 [博] 植物の一種

藤 [博] 蔓性の植物の一種

鮒 [博] 川魚の一種

鞆 [器] 鍛冶職の用ふる具なり

衾 [衣] かいまきのと

襖 [雜] カラカミのと

布巾 [器] 布を一尺許りに切り食器などを拭ふもの

吹矢 [器] 紙羽の矢を竹の筒に入れて息にて吹き出し物へ射あつる物

袱紗 [雜] 帛にて作れる小の湯に用ふるものは紫帛を

蒲團 [衣] 布帛にて綿を包みたるもの坐ぶと敷ふとあり

縣廳 [雜] 縣の官衙

月下氷人 [雜] むすぶのかみ

建仁寺垣 [住] 割竹を皮を外にして平たく結び並たる垣

警視廳 [雜] 警察のとなを掌る所

顯微鏡 [器] 微小のものを見る器具

【ふ】

譜 [雜] 系圖。音曲の曲節の次第を記したるもの

符 [雜] しろしの札。わりふだ

麩 [食] 小麥粉にて製したるもの

蓋 [器] 物の口を被ふもの

浮標 [雜] 海上のある位置を示すためなどに浮める標

葡萄 [博] 植物の一種

布海苔 [博] 海藻の一種

文庫 [器] 書冊雜品などを入れ置く器具

芙蓉 [博] 草花の一種

篩 [器] 粉などの粗と細とを振り分ける具

太箸 [器] 正月三箇日の膳部に用ふる箸

振袖 [衣] 袖を長くつけて腋を縫ひつけて小

鞆 [器] 網をつりさげ身を動かす具



**文銭** [器] 錢の名、寛永錢の一種

**文臺** [器] 短冊書籍などを載する小き机

**文鎖** [器] 書紙など風に飛ばぬやうに押へ置く具

**封筒** [雜] 封じ袋

**風船** [器] 輕氣球のこと

**風鎖** [器] 掛物の軸の兩端に掛けておもりとするもの

**風鈴** [器] 鐘に似て甚だ小紙片などをつけ風にゆらせ鳴る器具

**袋戸** [住] 袋棚にたつる戸

**筆立** [器] 筆を立ておくも

**吹竹** [器] 火吹竹

**踏石** [雜] 履ぬきのところに据えたる石

**踏臺** [器] 高き處に登る時など足の臺とするもの

**孵卵器** [器] 人工によりて鳥類の卵をかへすもの

**佛壇** [雜] 佛の像を安置するところ

**文鳥** [博] 愛玩用の小鳥の一種

**文房** [住] 書齋の稱

**風呂敷** [雜] 布帛を以て製し物を包むに用ふ

**文規** [器] 圓形を畫く器

**筆洗** [器] 筆の墨を洗ふに用ふる具

**總楊子** [器] 先方を總なる楊子

**風雨計** [器] 晴雨計に同じ

**噴水器** [器] 水を吹きあぐる器

**文房具** [器] 筆墨硯紙の類のこと

**不動産** [雜] 土地家屋などの稱

**打切飴** [食] 堅飴を引延に切れるもの

**敷設水雷** [器] 水雷の洗めおくもの

**覆面頭巾** [衣] 眼ばかりはるゝやうに作りたる頭巾

【三】

**粉** [食] 物を碎きて極めて細かくしたるもの

**碁** [器] 三百六十の目を盛りたる盤面に黑白の石を排べて勝負を争ふもの

**穀** [食] 米麥などの如き日日の糧とし食ふもの

**紺** [雜] 色の名

**駒** [博] 馬の稱

**琴** [器] 樂器の名

**鯉** [博] 淡水の魚

**鱗** [博] ウロコ

**鐙** [器] 壁をぬるに用ふる具

**産** [器] 蘭などにて編みたる敷物

**米** [食] 稻の實

**薦** [器] 粗く織りたるむしろ

**碁笥** [器] 碁石を入れ置く具

**獨樂** [器] 子供の玩具の名

**蘿苕** [博] 植物の一種にて極めて微小の者

**鮪** [博] 魚の一種

**鵠** [博] 白鳥のこ

**胡麻** [博] 植物の名

**衣** [衣] きぬ。きもの

**鐙** [器] 刀劍の鞘の末に飾をしてつくる金物

**五明** [雜] 扇

**小槌** [器] 大黒天の持てるが如き槌の名

**小柄** [器] 脇差の鞘に添へたる小刀

**炬燵** [器] 冬時足を暖むる小き爐

**紙捻** [雜] 紙を細く切り裂きてよりたる物

**梧桐** [博] あをざり

**吳服** [衣] 織物一切をいふ

**小鴨** [博] 鴨の一種の名

**國旗** [雜] 外國に對して一國の目標とする旗章



國帑 [雜] 國庫の金錢

胡椒 [博] 藥味の一種

犢 [博] 小き牛

琥珀 [博] 寶石の一種

五德 [器] 火鉢などの中に載せ置く具

牛蒡 [博] 野菜物の一種

胡粉 [雜] 繪の具の一種

鱈 [博] 乾魚の一種

曆 [雜] 一年中の四時月日など表に掲げたるもの

琴爪 [器] 琴をひくとき指の先にはむる物

勾欄 [住] 欄干の折れ曲れるもの

駒寄 [住] 門前などに設けたる低き欄

肥桶 [器] 肥を運ぶに用ふる桶

肥壺 [器] 肥を貯へ置くところ

肥船 [器] 肥を運搬する船

米庫 [住] 米をたくわへ置くところ

米櫃 [器] 精米を貯へ置く器

芥桶 [器] 芥を入るる具

腰懸 [器] 腰をかくるに用ふる床

腰卷 [衣] ゆもじ

孤兒院 [雜] 孤兒を集めて養育するところ

駒下駄 [器] 臺齒共に一造れる下駄

小刀 [器] 小き刀、紙などを切るに用ふる

紅茶 [食] 支那より産する一種のお茶の名

紅梅 [博] 梅樹の一種

咖啡 [食] 茶の一種

黑檀 [博] 熱帯に産する樹にして諸種の細工に用ふる

胡弓 [器] 樂器の名

骨董 [器] 古き由來ある器具

五大力 [器] 内海を航行する船の傳馬よりや、大なるもの

炬燵櫓 [器] 炬燵の上に置く櫓

公使館 [雜] 外交を掌る官衙

金剛杖 [器] 白木にて八角に削りたる杖

金剛砂 [博] ザクロ石を細末にしたるもの色赤黒く形多く稜あり玉石を研くに用ふる

金剛石 [器] 礦物の名、寶石の一也

興奮劑 [博] 沈みたる氣をひきたつるに用ふる藥

米揚筥 [器] とぎたる米をふるに用ふる具

米磨桶 [器] 米を磨ぐに用ふる具

腰掛臺 [器] 尻をのするに用ふる臺

腰障子 [住] 腰板のつきたる障子

腰屏風 [雜] 丈の低き屏風

【え、ゑ】

繪 [雜] 物の形象を筆にて書き現すもの

襟 [衣] 衣の首をめぐる部分

椽 [住] 母屋の端

繪馬 [器] 神佛に奉納する馬の畫をかける

餌 [食] 魚など釣るに用ふる

蝦 [博] 水産の動物の一種

箆 [器] 矢を盛りて背に負ふる具

衣紋 [衣] 襟を胸にて合せたる部分

燕脂 [雜] べに

烏帽子 [器] 冠の類、昔はらす頭に被りたるもの

襟卷 [雜] 寒さを防ぐ爲襟にまきつくる物

椽臺 [雜] 腰かけ臺

烟突 [器] けむりだし



蝦夷菊 [博] 植物の一種

槐 [博] 喬木の名

豌豆 [博] 植物の一種

襟飾 [雑] 洋服の襟につく

燕尾服 [衣] 西洋風の禮服

越中禪 [衣] 三四尺ばか  
に紐をつけこれを結び締め  
て用ふるもの

【て】

亭 [住] あづまや

艇 [器] 小舟

木偶 [器] 人形のこと

鐵 [博] 金屬の一種

蝶 [博] 虫の名

貂 [博] 獸の名

手鞠 [雑] 玩具の一、女兒  
のもてあそぶ物

手絡 [雑] 縮緬などのきれ  
に染めたるもの、婦人の結  
ひ髪に飾に用ふ

手鍋 [器] 鉷ある鍋

天蠶絲 [雑] テクスラムシ  
の糸、多く釣糸の端に用ふ

手桶 [器] 水を汲むに用ふ

手拭 [雑] 顔などを洗ひた  
るに用ふ

鐵槌 [器] かなづち

鐵砲 [器] 戦争及獵に用ふ

鐵瓶 [器] 鐵製の湯沸し

天秤 [器] 秤の一種

天幕 [雑] 天井にかくる幕

手焙 [器] 手をおふるに用  
ふる小き火鉢

手燭 [器] 燭臺の小くて柄  
ど持ち行くもの

手文庫 [器] 手廻りの小  
置小き箱

卓 [器] 机の脚の高きもの

鐵橋 [器] 鐵にて作れる橋

傳馬船 [器] 荷物の運送  
をなす用に供するもの

電信機 [器] 銅線を兩地  
き電氣の作用にて音信を通  
ずるもの

電氣燈 [器] 電氣の作用  
にて火を放

手水鉢 [器] 手洗水を入  
れたる鉢

手拭掛 [器] 手拭を掛く  
るもの

遞信省 [雑] 郵便其他の  
事を掌る

展覽會 [雑] 種類の製作  
品を公衆に見する所

鐵條網 [器] 防戦の爲鐵  
絲を網の如

天水桶 [器] 雨水を貯へ  
置く桶

天秤棒 [器] 兩端に荷を  
かけて擔ふ

天眼鏡 [器] 硝子鏡の圓  
形にて實物  
より大に見ゆるもの

手水盥 [器] 手水を盛る  
たらひ

鐵砲風呂 [器] 風呂桶  
銅鐵等の筒を設けその中に  
火を入れてわかつ風呂

【あ】

垢 [雑] 膾汗などの塵埃によ  
るもの

手拭 [雑] 顔などを洗ひた  
るに用ふ

鐵槌 [器] かなづち

鐵砲 [器] 戦争及獵に用ふ

鐵瓶 [器] 鐵製の湯沸し

天秤 [器] 秤の一種

天幕 [雑] 天井にかくる幕

手焙 [器] 手をおふるに用  
ふる小き火鉢

手燭 [器] 燭臺の小くて柄  
ど持ち行くもの

手文庫 [器] 手廻りの小  
置小き箱

飴 [食] もちごめをむして麥  
の熱湯を加へて搾り更に釜  
の中にて煉りたるもの

網 [器] 絲を打ち違へに編み  
結べる袋の如きもの

魚鳥捕へる具

閑伽 [雑] 佛に供する水を  
盛る器

麻 [博] 植物の名稱

葦 [博] 水邊に生ずる草の名

鯨 [博] 魚の名

粟 [博] 穀物の一種

鮎 [博] 川魚の名

蟻 [博] 昆虫の一種



**扇** [器] 竹などを骨とし、要を出し夏に用ふるもの

**裕** [衣] 裏をつけたる着物

**鏡** [器] 馬具の名、鞍の兩脇にかけ足をふみかくるもの

**網代** [器] 川瀬に數多の竹網に代へて魚を捕ふるもの

**足駄** [器] 下駄の一種、桐等にて齒をつけたるもの

**編戸** [住] 竹又は木片を編みて造れるもの

**網戸** [器] 金網にて張れる戸

**揚戸** [器] 下の方より押揚げてとづる戸

**行火** [器] 火を入れて用ふる具

**鸚鵡** [博] 鳥の名

**藜** [博] 草の名稱

**薊** [博] 草の名稱

**鮑** [博] 介殼類の一種

**鶯** [博] 家禽の一種

**葵** [博] 草の名

**鴉片** [博] 藥劑の一種、支那人の好む物

**杏** [博] 樹の名稱

**穴藏** [住] 地を掘りて作りたる倉

**行燈** [器] 燈火を點する具、紙を貼り中に油皿を置き火をとばす

**編笠** [器] 菅などを編みて作れる笠

**海豹** [博] 海獸の名

**紫陽花** [博] 灌木の一種

**甘鯛** [博] 海魚の一種

**編笠** [博] 物をあみて造れる笠

**鰵** [博] 海魚の一種

**霰酒** [食] 麴の溶けすして酒の如くなる

**網代笠** [器] 網代にて作れる笠

**網代垣** [住] 網代にてゆひたる垣

**東下駄** [器] 檜の木の下駄に疊表をつけたるもの

**裕羽織** [衣] 裏につけたる羽織

**安全燈** [器] 燈のまはり製したるもの

**操人形** [維] 人形に糸をわあやつりて音楽に合せ舞はするもの

**麻上下** [衣] 麻にて仕立てたる上下

**麻裏草履** [器] 草履の底に麻の組緒をつけたるもの

**有明行燈** [器] 終夜點行燈

**揚羽蝶** [博] 蝶の一種

【さ】

**賽** [器] 雙語六の具、小き立までの星をつけたるもの

**砦** [維] とりで

**箒** [器] 籠の類、竹をけづりて目を細かく編たる物

**竿** [器] 竹の幹の枝葉を去れるもの

**核** [維] 果實の中にある堅きもの

**柵** [住] 木材を疎に立てて作りたる垣

**鞘** [器] 刀劍の刀にはむるもの

**白湯** [食] 雑り物のなき湯

**砂利** [博] 極めて小き石

**犀** [博] 動物の名

**象** [博] 動物の名

**鷺** [博] 鳥の名稱

**鮭** [博] 魚の一種

**笹** [博] 竹の一種

**鯖** [博] 海魚の一種

**鮫** [博] 海魚の一種

**猿** [博] 動物の名

**筧** [器] 竹のさきを細かに割りて作れるもの

**棧敷** [維] 物見のため、高く構ふる床

**珊瑚** [博] 海中に生ずる蟲の如く色に赤白あり、種種の飾りに用ふ



**更紗** [衣] カナキンに種種の模様を染め出したるもの

**砂糖** [食] 砂糖きびより搾製したるもの

**財布** [雑] 金銭を入るゝ袋

**櫻** [博] 灌木の名

**榮螺** [博] 介殻類の一種

**蛹** [博] 蠶の繭の中にて化したる虫の名

**鯖** [博] 海魚の一種

**樾** [博] 植物の一種

**秋火馬** [博] 海魚の一種

**針魚** [博] 海魚の一種

**木槌** [器] 木の槌の小さきもの

**菜箸** [器] 飯の菜を取り分けるに具ふる箸

**齊服** [衣] 祭典の時に着る服白布又は絹にて製す

**酒樽** [器] 酒を貯ふるかめ

**棧橋** [雑] 岸より水上へつき出したる木造の橋

**三味線** [器] 日本の樂器

**山門** [住] 寺の前の樓門

**霰彈** [器] 彈丸の一種、形細かくて數多し

**指物** [器] 戰場にて鐙の背に受角にさしてめじるしとせる小旗

**刺股** [器] 昔捕り物に用ひたる具

**座蒲團** [器] 坐する時に敷くふとんに

**雜巾** [雑] 板の間などを拂ひ拭ふもの

**霸王樹** [博] 植物の一種

**山椒** [博] 樹の一種

**猿轡** [雑] 聲を出さしめぬために手拭などにて口を被ひしげること

**鬮** [雑] 風雨にさらされ骨のみとなれる首

**佐倉炭** [雑] クヌギを焼きて作りたる炭

**薩摩薯** [博] 植物の一種

**賽錢箱** [器] 賽錢を入るるための設けたる箱

**碎氷船** [器] 船路をひらく爲海上の氷を破碎するやうに作りたる船

【き】

**錐** [器] 木などに孔を穿つに用ふ

**絹** [衣] かいこより取れる絲にて織れる織物

**杵** [器] 白に入れたる物をつくに用ふる具

**柩** [器] ひつぎ

**雉** [博] 山野に棲息する美麗なる鳥

**灸** [雑] もぐさを肌にあてて火をつくるもの

**鱧** [博] 海魚の一種

**砧** [雑] 布帛を載せてうつに用ふる臺、木又は石にて作る

**菌** [博] 朽木又は樹下石上に生ずる植物

**烟管** [器] 刻煙草を吸ふに用ふる具

**鬼門** [雑] 佛家陰陽家の語に思ひさくべき方角

**義手** [器] 手切斷せられたる手にゴム又は木にて作りたる手

**義足** [器] 切斷されたる足にゴムにて作りたる足

**喜劇** [雑] 人を笑はしむるやうに仕組める芝居

**金庫** [器] 貴重品を入れおくもの

**伽羅** [博] 熱帯地方に産する木の心にて製したる香

**御璽** [器] 天皇の用ひさせ給ふ御印の稱

**旗艦** [器] 司令長官の乗り居る軍艦

**切火** [雑] 火打石と鐵と打ちつけて出す火

**機械** [器] 種種のものを製造するもの

**急須** [器] 葉茶を入れ湯を注ぎて煎じ出すに用ふる器

**胡瓜** [博] 野菜の一種

**狐** [博] 動物の名

**桔梗** [博] 草花の名、秋の七草の一



**切溜** [器] 臺所にて野菜などに用ふる匣

**切餅** [食] 角に切りたる餅

**經木** [雜] 杉檜などを薄くはぎて菓子折などに作るもの

**魚板** [器] 魚の形に作れる板、紐をつけて吊り下げ打ちならして時を報ずるもの

**曲馬** [雜] 馬を使ひて種種技をなすこと

**炬火** [雜] たいまつ

**脚立** [器] 身の丈の足らぬ肩かしむる臺

**徽章** [器] 帽子などにつく

**白砲** [器] 大砲の一種、形口廣し、城壘軍艦などを攻撃する具

**球杆** [器] 體操に用ふる器具

**曲条** [器] 椅子の一種、脚圓く曲れる寄掛あり

**巾着** [器] 金錢などを入れうに作れる小き袋

**脚本** [雜] 芝居の狂言のしるもの

**客車** [雜] 汽車の乗客を乗せるもの

**鏡臺** [器] かがみかけ

**狂言** [雜] 昔のわざをきの一種

**絹篩** [器] 底を絹にて張れるふるい

**蟋蟀** [博] 虫の名

**木賃宿** [雜] 安宿のこと

**擬寶珠** [器] 欄干の柱の上等の飾り

**鬼子母神** [雜] 神の名、子を授くる神、女神

**金鷄勳章** [雜] 戦功ある者に與ふる勳章

**給炭船** [雜] 軍艦などへ石炭を送り込む船

**救世軍** [雜] 耶蘇教者の組織にて其教を弘めあるもの

**救恤金** [雜] めぐみ金

**休泊所** [雜] 休泊するところ

**近眼鏡** [器] 近眼の人の用ひる眼鏡

**銀婚式** [雜] 夫婦結婚後二十五年目に行ふ祝賀の式

**金婚式** [雜] 夫婦結婚後五十年目に行ふ祝賀の式

**狐格子** [住] 宮殿社寺等の風の處に用ふる様な格子

**經帷子** [器] 死人を葬る時着する物

**切籠燈籠** [器] 燈籠の一種、紙帛などを細く切りてはりたるもの

【ゆ】

**湯** [雜] 水の沸きたるもの

**弓** [器] 武器の名、矢を射るもの

**湯屋** [雜] 浴する屋

**床** [住] 家の中に一段高く構へて起き臥しする處

**柚子** [博] 果物、柚の實

**百合** [博] 草の名

**指環** [器] 指の飾りにはむる金銀珠玉などの小き環

**湯桶** [器] 食後に飲むべき湯を盛る器

**湯殿** [住] 浴する室

**浴衣** [衣] 浴したる後に着る單衣の着物

**硫黄** [博] 礦物の名、火山に生じ、火を發し易し

**結納** [雜] 婚姻する時に婚約として兩家に在帛を贈りかばすこと

**湯沸** [器] 藥罐に似て小きもの多くは銅製なり

**岩田帶** [雜] 懷妊して五ヶ月目に腹に締むる帶

**弓張提灯** [器] 提燈の一種、形の竹を上下にかけ張り開くやうに造れるもの

【め】

**飯** [食] 米を炊きたるもの



目釘 [器] 刀の柄より抜けざるやうにとむ

目籠 [器] あみめのあらし

眼鏡 [器] 眼にかけて分る物

名刺 [雑] 名札のこと

茗荷 [博] 野菜物の一種

面桶 [器] 飯を盛りて面用

銘酒 [食] 格段なる製法に

銘仙 [衣] 織物の名

莫大小 [衣] 綿糸毛糸に

【み】

箕 [器] 穀をふるひて穀塵な

蓑 [器] 雨着に用ふるもの

漕 [雑] 海、川中にて舟の通

御簾 [器] 御殿又は貴人の

刀背 [器] 刀の又の背

味噌 [食] 大豆を煮てつき

海松 [博] 海草の名海中の

密柑 [博] 植物の名

御輿 [器] 専ら神靈を載せ

御籤 [雑] 神佛に祈りて吉

船首 [器] 船のへさきにつ

味咄 [食] 蒸したる糯米九

陵 [雑] 帝王后妃の御墓所

水差 [器] 鐵瓶花瓶などに

水漉 [器] 水の垢などを漉

水飴 [食] 飴の泥状をなせ

水船 [器] 飲水を運送する

水餅 [食] 堅くならぬ様に

御燈明 [雑] 神佛の御前

蓑龜 [博] 龜の年老ひて甲

蜜蜂 [博] 蜂の一種

木兔 [博] 鳥の名

亂箱 [器] 浅くて廣き匣、

水車 [器] 流水の力をかり

三目錐 [器] 錐の又の三

明礬 [博] 薬の一種

水鐵砲 [器] 水を高き處

柴 [博] 山野に生ずる雑木の

鹽 [食] 海水にて製す、山よ

朱 [雑] 色の名

澁 [雑] 塗物に用ふ

蕊 [博] 稻の莖の細きところ

瑟 [器] 二十五弦を張りたる

鹿 [博] 獸の名

紙魚 [博] 蟲の名、衣服書

注連 [雑] シメナツのこ

獅子 [博] 猛獸の名

紫蘇 [博] 草の名

縹子 [衣] 織物の一種

柘 [博] 植物の名

褥 [衣] 座する時下に敷くも

蓆 [住] 日よけ。日覆ひ又雨

錠 [器] 門戸櫃などの開くべ

笙 [器] 雅祭に用ふる樂器の



**燭** (雑) 蠟燭の燈火

**笏** (器) 束帶の時右手にて持つもの木又牙にて作る

**鍛** (雑) 兜の後に垂れて首を被ふもの。土藏にさしかけて底の如く作れる物

**搾木** (器) 胡麻の油たどをしめとる機械

**色紙** (雑) 和歌を記すに用ふる紙

**襯衣** (衣) はだぎ

**寝衣** (衣) れまき

**寝具** (雑) れどぐ

**新香** (食) 香の物

**漆器** (博) 漆を塗りたる器

**十手** (器) 捕手の携ふるも鉄製の短き棒

**師團** (雑) 軍隊の区分の名。旅團より大なり

**書庫** (雑) 書籍を入れ置く

**汁粉** (食) 餅を入れて汁と入れたるもの

**質屋** (雑) 質物を預かりて金をかすところ

**四季施** (衣) 主人より奉に應ずる衣服を作り與ふ

**紙幣** (雑) 兌換券のこと

**紙型** (雑) 紙にとりたる鏝形

**刺繡** (雑) むひもの

**紫檀** (博) 熱國産の木の名

**棕櫚** (博) 植物の名

**如露** (器) 鉢植の草木などに水を注ぐ具

**將棋** (器) 遊ぶ具

**白酒** (食) 飲料の名。精らげみりんに浸しこれを磨白にてひきながらみりんを加へて製す

**漏斗** (器) 流動物を徳利にぬるる時こぼれぬ爲に口にさすもの。開き末細くつばまりたるもの

**床机** (器) 腰掛の一種。昔障子の中にたてる

**障子** (住) 家の中にてたてる

**助炭** (器) 爐長火鉢などののわくに紙をはりて作る

**神饌** (雑) 神に供ふる供米

**眞珠** (博) アマヤガヒより出る珠の名。薬用又は飾りとす

**篠笛** (器) 細き竹にて作る。横笛、里神樂に用ふ

**蛇籠** (雑) 長く大きく粗く編みたる籠。中に石を入れて水流の防ぎとす

**蛇口** (器) 水の注ぎ出る管の先につくるも銅鐵真鍮などにて造る

**戎衣** (衣) 軍服

**敷紙** (雑) 敷物にする紙、厚く裁りて漉す

**熟柿** (博) よく熟したる柿

**敷金** (雑) 借家の家賃の滞りとして豫め家主に預け置く

**襦袢** (衣) 肌につけて着る短き単衣

**注連** (雑) 七五三とも書す。神前に引き渡す

**磁石** (器) 方角を知る器

**菖蒲** (博) 草の名

**醬油** (食) 食物に味を添ふる鹹美なる液

**麝香** (雑) 香料の名

**杓子** (器) 飯又汁などをすくひとる具

**食卓** (器) 食事の時に用ふる臺

**状差** (器) 手紙を差し置く具

**状箱** (器) 書状を入るる箱

**商船** (器) あきないぶね商船(シヤウハク)

**商店** (雑) あきなひみで

**賞牌** (雑) 功勞を賞するしるしとして賜る。金銀銅などにて製す

**賞杯** (雑) 功勞を賞し又は善行を賞する爲に官より賜る盃、金銀木の三種あり

**浄水** (雑) てあらひみづ

**樟腦** (博) 樟の木の中心の香氣強き部を蒸らして煎じたる汁より製したるもの



娼樓 (雑) 女郎屋

食堂 (住) 食事するたために設けたる堂

食卓 (器) 食事に用ふるだ

燭臺 (器) 蠟燭を立つる臺

調革 (器) 蒸氣機械の車な引懸けて廻らすに用ふる細長き革

尺八 (器) 笛の一種

眞鍮 (博) 金属の一種

扱帯 (衣) シゴキ

絨緞 (雑) 織物の名、専ら敷物として用ふる

祝筵 (雑) いはひの席

祝融 (雑) 火事

紫宸殿 (住) 京都の舊内裏の宮殿

注連飾 (雑) しめなほを結びかざる

締太鼓 (器) つづみの如く作り、絲にて草をしめたる太鼓

須彌壇 (雑) 佛教の語、する臺

須彌山 (雑) 山の極めて大なるもの (佛教に言ふ語)

手裏劍 (器) 手に執つてるに用ふる小き刀

授産場 (雑) 貧民に産業を授くる所

棕栲繩 (雑) 棕栲の皮をなひて造れる繩

仕切判 (雑) しきりをする時に用ふる判

敷蒲團 (衣) 寢床にしくふとん

自在鈎 (器) 鐵瓶釜など釣りこくるに用ふる鈎

三鞭 (食) 洋酒、最も高價なるもの

自轉車 (器) 自から足にかし行く車

仕込杖 (器) 杖の幹の中を仕込めたるもの

四弦琴 (器) 形三味線に似て、棹は三尺二寸ほどにて、四筋の絃を

島田鬻 (雑) 女の髪を結ひ、方多くは未だ嫁せざる女の結ふもの

信號旗 (雑) 信號の爲に用ふる旗

唇氣樓 (雑) 海道又は沙漠などに、空氣の反射により村落、樓閣など現はること

新聞紙 (雑) 世上の新聞を珍らしき事柄を書き集めて發行する物

指南所 (雑) 物事を指南するところ

指南車 (雑) 支那にて昔を擧げて南を指せる木偶を据ふる車は、回轉するときは、行するものの方角を失はぬためにしたるもの

支那靴 (器) 靴の一種、出するもの

仕付針 (器) 新に衣服を仕立つるに用ふる針

仕付絲 (雑) 新に衣服を仕立つるに用ふる糸

司令塔 (雑) 軍艦の帆柱たるもの

淨瑠璃 (雑) 俗間の歌謠に年間出來たるものにて、現に義太夫節、釋するもの

自働車 (器) 石の力にて造りたる車

祠堂金 (雑) 祠堂を設ける料として寺に寄附する金

潮干狩 (雑) 潮の引き去る時に貝など取る事

芍藥 (博) 草の名

狀袋 (雑) 手紙を入れて贈るに用ふる袋

忍返 (住) 棟又は屏などの上、釘又は尖りたる竹を打ち並べたるもの

錫杖 (雑) 僧修験者のつく杖頭に數多の環をなす

痺藥 (雑) 麻酔を起さしむるための藥

巡洋艦 (器) 軍艦の一種、まはして敵の動靜を伺はしむるに用ふる

收斂劑 (雑) 胃腸を收斂する薬



十一單 (衣) 女官の装束にヒトへ、イツツギヌ、ウハギを重ね、緋の袴を穿つ

鬻火鉢 (器) 金屬製の圓形火鉢の圓獅子の顔のしきみたるをつけたるもの

棕栢箒 (器) 棕栢の毛にて造れの箒

試験管 (器) 化學の試験に用ふる管

寫眞版 (雜) 原板を寫眞これ銅版に刻りたるもの

蛇目傘 (雜) 紙を黒く又は赤く蛇の目の紋所の如くぬりたる傘

人力車 (雜) 人をのせて輓く車

神代杉 (博) 杉の材の數年間に居たるもの

信玄袋 (雜) 種々小物へ行くに用ふる袋

七寶燒 (器) 陶器の名

將棋盤 (器) 將棋をさしに用ふる盤

常夜燈 (雜) 神佛の前に絶へずともして置く燈火

蒸溜水 (雜) 沸騰せしめなどに用ふる水

從軍記章 (雜) 從軍しにそのしるしとして賜る記章

【ひ】

樋 (雜) 水を遠きに導くに用ふる方圓の長き管竹木にて造る

碑 (雜) いしぶみ

緋 (雜) 深紅の色

紐 (雜) 糸の太きもの

鰭 (博) 魚の脊と兩脇にありて運動を助くるもの

櫃 (器) 箱の大きくて上に向ひて蓋あるもの

雛 (雜) 三月の節句に飾る人形

被布 (衣) 衣の名、羽織に似ておくみ深く中襟に製したるもの

魚舂 (器) 魚を入るる竹籠

琵琶 (器) 樂器の名

狒狒 (博) 怪獸の名

蹄 (雜) 牛馬羊等の爪

棺 (器) 人の屍を納め葬るに用ふる匣

屁 (住) 家の四方の軒先に別に作りて垂れたる軒

檜 (博) 喬木の名

干鱈 (食) 薄鹽にして乾したる鱈

干物 (食) 魚に鹽をひきなしたるもの

引戸 (住) 敷居鴨居の溝に閉すべく作れる戸

火箸 (雜) 火をばさむに用ふる箸

翠 (博) 鳥の名、カハセミに同じ

雲雀 (博) 鳥の名

緋鯉 (博) 色彩ある鯉

火熨斗 (器) 布帛の縮みを直す器

廣蓋 (器) 衣服を藏むる唐櫃などの稱

廣敷 (雜) 大名の邸の奥面臺所の稱

築 (器) 裡樂の樂器

鏝錢 (雜) 穴のある錢

直垂 (衣) 昔、庶人の常服禮服となりたるもの

檜扇 (雜) 古檜の薄板を以て製したる扇

引札 (雜) 商人の品目を印刷して各所に配するもの

引幕 (雜) 左の方より行き明くる幕

引窓 (住) テンマド

挽白 (器) スリウスに似たる白

挽物 (器) ろくろ細工にて挽きたる器物

挽物 (器) ろくろ細工にて挽きたる器物

穀糊 (雜) 飯を柔く煮て白にてすりつぶしたる糊

茅蜩 (博) 虫の名

柄杓 (器) 湯水をすくひたる具



鶉ひよどり (博) 鳥の名

天鵞絨てんおじょう (衣) 織物の名

飛行機ひこうき (器) 空中を飛行する機

單物ひとへもの (衣) 衣の一種にて裏のつかぬもの

緋袴ひはかま (衣) 赤色のはかまの女官のうがつのもの

毘沙門びしゃもん (雜) 七福神の内の一神

火消壺ひけしづば (器) 薪のつき火を入れたけすに用ふる壺

避雷針らいしん (器) 落雷の害をさくろる爲に設

日和下駄ひよりげだ (器) 下駄の齒の短きもの

雛祭ひなまつり (雜) 上巳の日にひななどを供へて遊ぶと

【も】

裳ちやう (衣) 女の腰より下につく衣

餅もち (食) もち米を蒸して搗きたるもの

糭もち (雜) ヤニの如く極めて粘りあるもの。鳥などを捕ふるに用ふ

銛せん (器) 鯨を刺すに用ふる具

粉こな (雜) 米の殻を去らざるもの

百舌ももぢ (博) 鳥の名

桃もも (博) 樹の名

門扉かど (住) 門のとびら

毛皮けがし (雜) けがし

毛布けがし (衣) 毛織の布

模型もけい (雜) かつた

喪服さうふく (衣) 喪の時に着る着物

裳裾ちやうすそ (衣) 裳の裾

畚ひん (器) 繩にて造りたる土を運ぶもの

餅網もちあみ (器) 餅を入れて吊し置くに用ふる網

紋服もんぷく (衣) 紋付の衣服

門鑑かどかん (雜) 門を入するこゝとを許す手形

毛筆けがし (器) 毛のつきたる筆

物差ものさし (器) 物の長短をさし計る具

物干ものほし (雜) 洗ひたる衣服などを乾すところ

木琴もくきん (器) 樂器の名

木魚もくぎよ (器) 僧の讀經の時叩きて音を發せしむる具

木材もくざい (雜) 家屋等に作る料とする諸種の木

股引ももひき (衣) 兩股の膚につけて穿くもの

木犀もくせい (博) 樹の名その花の香非常に高し

木蓮もくれん (博) 樹の名、その花白くして趣あり

木綿絲もめんいと (雜) 木綿わたを績たる糸

物干竿ものほしざは (雜) 洗ひたる衣服などを掛けて干すに用ふる竿

錢せん (雜) 通用の貨幣

栓せん (雜) 孔に差し込みて物の漏れやうにするもの

膳ぜん (器) 食事の器を載するに用ふる盤

席せき (雜) むしろ。ござ。しとね。座敷、部屋

蟬せみ (博) 虫の名

芹せり (博) 草の名

雪駄せつだ (雜) 竹の皮にて作りたる草履の底に牛皮を合せたるもの

扇子せんす (雜) あふぎ

石碑せきひ (雜) いしぶみ

蒸籠せいろう (器) 團子饅頭などを蒸す具

線香せんかう (雜) 佛に供ふる線狀をなせる香

鵲ささづき (博) 小鳥の名

燒酎せうちゆう (食) 酒精分の強き酒

青銅せいどう (博) からかれ

梅檀ばいだん (博) 植物の名

制札せいさつ (雜) 禁制の條を書きて路傍に立つ札

制服せいふく (衣) ある團體にて定めある衣服



瀬戸物 (器) 陶器の總稱

背戸口 (雑) 裏門の入口

船舶 (雑) 船

石鹼 (雑) 水を溶かして物を洗ふに用ふる

石材 (雑) 家を造るに用ふる石

石炭 (博) 鑛物の名、土中にあり燃料とす

晴雨計 (器) 天候を量る機械

潜水器 (器) 水中をくぐるに用ふる器

石灰 (博) いしばひ

税関 (雑) 貿易港に在つて内外船舶の事務を掌る

〔す〕

醋 (食) 酢の字をも用ふ。味の酸き液

巢 (雑) 窠の字も用ふ。鳥獸の構へたるすみか

鋤 (器) 鋤の字をも用ふ。地を掘る具

炭 (雑) 木を炭竈に燻べ焼きて作れるもの。火鉢などに用ふ

墨 (雑) 硯にて磨りて物を書するもの

數珠 (雑) 佛を拜む時手にもちて摺り鳴らすもの

錫 (博) 鑛物の名

鈴 (器) 金屬にて造りて内に銅珠を含む振り鳴らして音を出す

杉 (博) 木の名

簾 (器) 細く削りたる竹を編み合せたるもの

硯 (器) 墨をするに用ふる。石又は瓦にて造る

素袍 (衣) 昔の士の衣

鱸 (博) 魚の名、河海兩つながらに棲息す

鰯 (食) 鳥賊を割きて干したるもの

雀 (博) 小鳥の名

李 (博) 樹の名

水車 (雑) みづぐるま

菅笠 (雑) 菅の葉にて編みたる笠

据風呂 (雑) 大なる桶を沸し浴するに用ふるもの

墨差 (器) 竹の端を細かにさきたるもの。大工の墨壺に添へ筆の代とす

墨壺 (器) 矢立の柄なきが如きもの

炭竈 (雑) 炭を作る竈

炭取 (器) 炭を俵よりくづして入るる具

鼈 (博) 龜の類

裾模様 (衣) 裾に模様を描たる衣服

裾廻 (衣) 衣服の裾につくるきれ

梳油 (雑) 髪をすく時つける油

納涼臺 (器) 夏時すすみの腰掛

硯箱 (器) 硯を入れおく箱

水晶 (博) 鑛物の一種

水彩畫 (雑) 西洋の繪畫にて溶かし得る繪具を用ひて描きたるもの

坐右新辭典 終



引索部地天

ソセスシサコケクキカオエウイア

七四四三三三三三二九三三一三

ホヘフヒハノネヌニナトテツチタ

五五元元三三三九四元六三三八七四

ワロレルリラヨユヤモメムミマ

二二六九八三三三三三三三三三三三

天地部(一)

引索部候時

ソセスシサコケクキカオエウイア

五五五五五五五五五五五五五五五

ホヘフヒハノネヌニナトテツチタ

五五五五五五五五五五五五五五五

ワロレルリラヨユヤモメムミマ

四四四四四四四四四四四四四四四

時候部(四三)



人事部索引

ソセスシサコケクキカオエウイア

二二七 二二九 二四六 二〇六 一九二 一七七 一七〇 一五五 一五九 一〇三 九三 八三 五三 七〇 一八一

ホヘフヒハノネヌニナトテツチタ

六九 一七四 二〇〇 七〇 一五九 一四二 九三 六九 一四三 八二 八四 一五五 八四 一三三

ワロレルリラヨユヤモメムミマ

一〇〇 九六 一三三 九三 八八 一四九 一〇〇 二〇〇 一六四 一三七 二〇〇 一五〇 一〇三 一六七

人事部(六七)



引 索 部 語 言

ソ セ ス シ サ コ ケ ク キ カ オ エ ウ イ ア

五二三 九五〇 九七六 八四三 七六九 七〇三 六五六 六〇八 七九三 四〇四 三三二 七三六 二九二 二五〇 七五〇

ホ ヘ フ ヒ ハ ノ ネ ヌ ニ ナ ト テ ツ チ タ

元一 二九八 六八四 九三二 二七三 六〇六 五六〇 三六七 二八八 五七七 三〇八 七三三 五三八 三三四 四八四

ワ ロ レ ル リ ラ ヨ ユ ヤ モ メ ム ミ マ

三九六 三七二 五一六 三七〇 三五二 五八〇 七四一 八三三 六八八 九四三 八二七 五八五 八三三 六四五

言 語 部 (二五〇)

引 索 部 名 物

ソ セ ス シ サ コ ケ ク キ カ オ エ ウ イ ア

一〇二 一〇四 一〇六 一〇七 一〇八 一〇九 一一〇 一一一 一一二 一一三 一一四 一一五 一一六 一一七 一一八

ホ ヘ フ ヒ ハ ノ ネ ヌ ニ ナ ト テ ツ チ タ

九九四 九九五 一〇〇三 一〇〇二 九九〇 一〇一七 一〇一三 一〇〇〇 九九三 一〇一三 九九六 一〇一八 一〇二二 九九八 一〇〇七

ワ ロ レ ル リ ラ ヨ ユ ヤ モ メ ム ミ マ

一〇〇二 九八九 一〇〇〇 一〇〇〇 九九九 一〇一五 一〇〇七 一〇一五 一〇一九 一〇四四 一〇三三 一〇一五 一〇三六 一〇二〇

物 名 部 (九八六)



大正二年九月十七日發行

印刷

【正價金壹圓】

監修者 大町桂月

編輯者 武田櫻桃四郎

東京市神田區仲町二丁目六番地

發行者 中島卯三郎

東京市京橋區新榮町五丁目二番地

印刷者 山内鍬次郎

複製不許

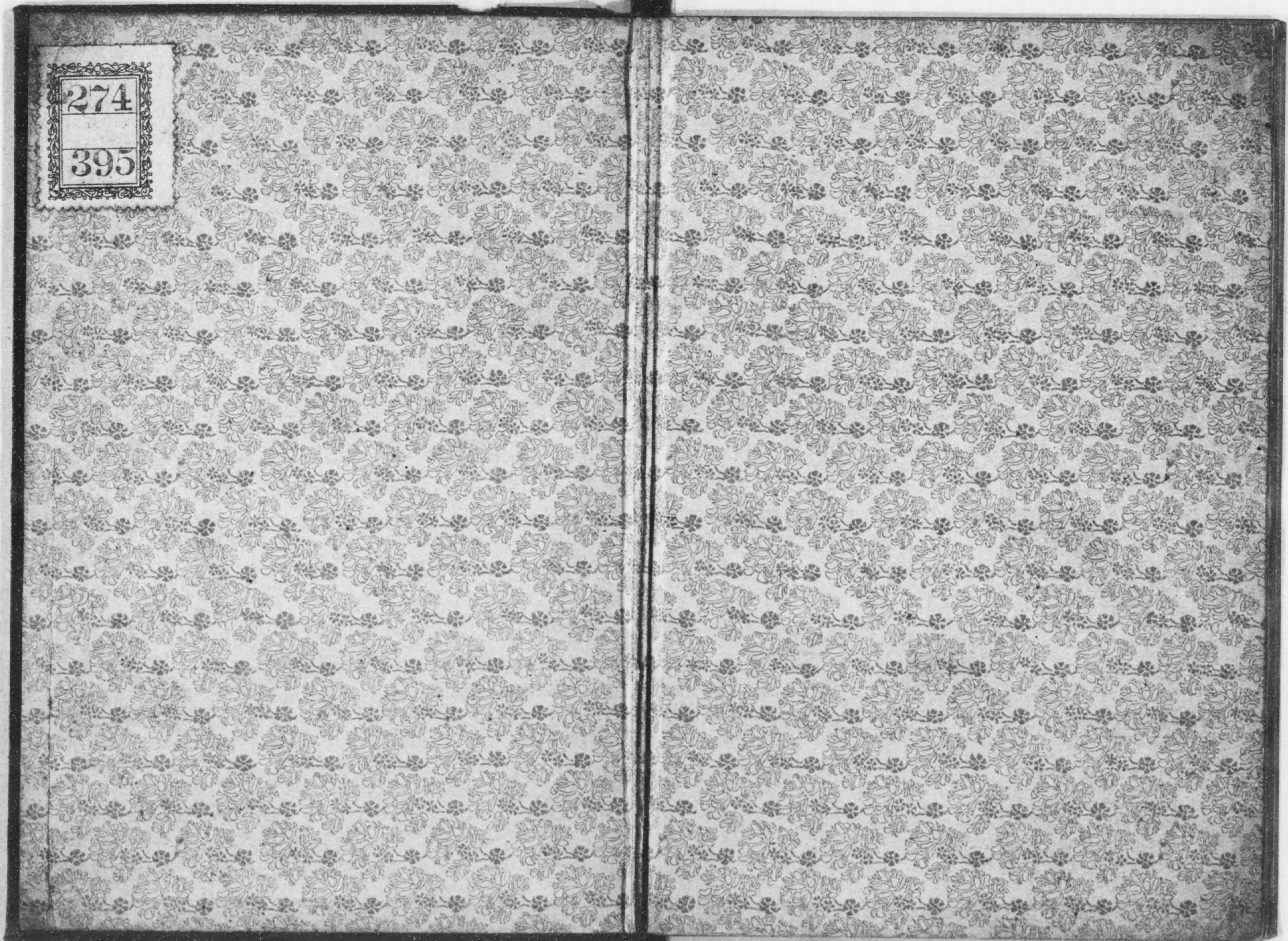
發行所 辰文館

東京市神田區仲町（電話下谷）  
振替東京一六八五九番（五九五番）

賣捌所 全國各地書籍店に販賣せり



274  
395





終

